昭文社ホールディングス＜9475＞、MBOで株式を非公開化

地図・ガイドブック出版やWebメディア運営を手がける昭文社ホールディングスは、少子高齢化・人口減少による旅行・観光市場の縮小や、消費者の書籍離れに直面しており、これらの課題に対応するにはデジタル分野への投資やM＆A、新規事業への参入が必要と判断。MBO（経営陣による買収）で株式を非公開化して、迅速な経営判断や機動的な資源配分が実現できる体制を整える。

具体的には、メディア事業でAI（人工知能）を活用した観光情報のパーソナライズ化や翻訳サービスの高度化、観光テック関連企業へのM＆Aなどを進める。また、地図データを活用したソリューション事業では、経路最適化サービスといった物流・配送分野への展開、水道や電気を含むインフラ領域での地図作成、ストック型ビジネスの強化などを推進する。

買付主体は創業家の資産管理会社で、昭文社HDの黒田茂夫社長が代表を務めるMSE（東京都千代田区）。MSEは現在、昭文社HDの株式19.14％を保有している。

買付価格は1株につき752円で、公表前営業日の終値567円に対して32.63％のプレミアムとなる。買付代金は約94億7700万円。

買付予定数は1260万3721株で、下限は663万3100株（所有割合37.03％）。買付期間は2026年11月9日～12月21日までの30営業日。決済の開始日は12月28日。公開買付代理人は三菱UFJモルガン・スタンレー証券で、復代理人は三菱UFJeスマート証券。

黒田社長が保有する10.49％の株式はTOBに応募しない。TOB成立後、株式交換などを経て、昭文社HDはMSEの完全子会社となる。昭文社HDはTOBに賛同を表明し、株主に応募を推奨している。昭文社HDの東証スタンダード市場への上場は廃止となる。

昭文社HDは1960年に地図出版の昭文社として創業した。1996年に株式を店頭登録、1999年に東証2部、2000年に東証1部に上場（2022年4月に東証スタンダード市場に移行）。2020年に持ち株会社体制に移行し、現社名に変更した。